

PROGRAM NOTE

2008

近藤譲：杣径（そまみち）

8 楽器のための

Holzwege

for 8 instruments

(Flute, Oboe, Clarinet, Percussion, Piano, Violin, Viola and Cello)

この作品は、ドイツのアンサンブル・ルシエルシェの委嘱で、2008年に作曲され、翌年のヴィッテン現代音楽祭で同アンサンブルによって初演された。

この曲の題「杣径」は、ハイデッガーの著書のタイトル“Holzwege”（彼の有名な芸術論がこの著書に収められている）に由来している。とはいえそれは、私がこの曲を書いていたときに偶々その本を読んでいたというに過ぎず、ハイデッガーの著書とこの曲の間に何らかの具体的な係わりがあるわけではない。

ヴィッテン現代音楽祭でのこの作品の初演が決まったとき、音楽祭のディレクターから、「タイトルは本当にこれでよいのか」という問い合わせを受けた。彼によれば、‘Holzwege’は、確かにハイデッガーが使った言葉ではあるが、あまり用いられない単語で、口語として偶に使われる場合は、むしろ、「間違っただ」という意味が強いというのだ。私は、彼の指摘に感謝し、「そのような意味があればなおのこと、このタイトルは適切だと思う」と返信した。

私は、1970年代の初め頃以来、自分で「線の音楽」と名づけた方法論に基づいて作曲を続けている。それは、目的論的な方向性をもたない一本の線（音の連なりとしての線）としての音楽である。この40年近くの間私の作品の響きは徐々に変化してきたが、基本的には今も同じ作曲方法論の延長線上で仕事をしている。このような作曲方法論と、その結果として現れる作曲様式は、明らかに、同時代の現代音楽の「主流」（言い換えれば、大多数の作曲家達が根差している基本的な作曲原理）から遠く外れた位置にある。私の作曲様式は、言わば、私自身が確信をもって意図的に択んだ「間違っただ」と言えるのかもしれない。

近藤譲

初演：2009年4月24日 ヴィッテン現代音楽祭
(Rudolf Steiner Schule, Witten, Germany)

初演者：Ensemble Recherche

委嘱：Ensemble Recherche (Germany)

出版：University of York Music Press (UK)

録音：ALCD-93

演奏時間：8分